

## 第3節 中学3年生

### 国際理解と平和 ～新時代を創る～

杉本雅子・佐藤愛子  
隅田久文・大羽徹  
岡村明

【抄録】 戦後67年が経過し、戦争体験を直接聞く機会は少なくなり、今後さらに減少していく。そこで、生徒には戦争に直に触れる経験（講話や見学など）をし、そこから何かを感じ、平和を希求する心を育ててもらいたい。本校で伝統的に行われている広島研究旅行を総合人間科の中心に据え、フィールドワークを通して学んだことを、研究集録やポスターセッションの形で発表し、互いに学び合った。

【キーワード】 グループ学習 フィールドワーク ポスターセッション

#### 1. 学習のねらい

中学3年生の総合人間科は、初めてのグループ学習である。1班は8名で構成される。学年の大テーマ「国際理解と平和」に基づいた各班のテーマを決め、11月に行われる広島研究旅行のフィールドワーク（以下FW）に臨む。班での学び合いを通して、戦争や原爆のもたらした被害や復興について知り、平和を求める心を育てることをねらいとしている。

戦後67年が経過し、戦争体験者の減少とともに、戦争体験談を聞くことはますます貴重なものとなった。そんな中で、できるだけ戦争体験者の生の声や、遺された物に触れる機会を設け、生徒に何かを感じてもらおうことを目指した。生徒の活動の目標としたのは、以下の3点である。

- ①戦争などの事実を共感的に受け止め、平和の尊さについて考えさせる。
- ②国際理解と平和の関係をとらえ、自分が日頃どのように考え、行動すべきかを見つけさせる。
- ③グループ学習を通して、共同で研究する楽しさを知り、学び合いのできる学年集団を形成する。

サブテーマを「新時代を創る」としたのは、この一年間の学びから、自分たちが社会の担い手たる自覚を持ち、戦争体験者から受け継いだものを基盤にして平和な社会を築いてほしいという願いをこめたものである。

#### 2. 授業の取り組み

7月までは、個人で戦争に対する関心や知識を深めた。夏休みに入る前にグループ分けをする。夏休み中にFW候補地を選ぶ。夏休み明けにアポ取りを開始し、了承されたら依頼状、質問状を書く。11月には広島研究旅行のFWを行う。その後、班の研究成果を集録にまとめ

たり、研究発表会（ポスターセッション）で報告したりする。

今年度のグループ分けは男女が4人ずつになるようにくじで決めた。偶然に編成された班だったが、どの班も仲良く取り組むことができた。

#### 【一年間の授業日程】

| 回  | 月日        | 授業内容（予定）  |
|----|-----------|---|
| 1  | 4月18日     | 年間計画提示（授業参観）  |
| 2  | 4月19日     | マインドマップ作成（キーワードを見つける）   |
| 3  | 5月10日     | 第二次世界大戦について、杉原千畝についてビデオ鑑賞                                     |
|    | 5月18日     | 遠足：杉原千畝記念館・リトルワールド  |
| 4  | 5月24日     | 戦争証言者講話（ピースあいち）   |
| 5  | 6月7日      | 「模擬爆弾パンブキン」ビデオ鑑賞、クイズ  |
| 6  | 7月5日      | 戦争に関するスピーチ<br>グループ編成、グループテーマ決め（7月）                            |
|    | 夏休み課題     | 個人レポート作成、FW候補地調べ  |
| 7  | 9月6日      | FW候補地の研究、アポ取り準備   |
| 8  | 9月20日     | アポ取り、事前学習   |
| 9  | 10月11日    | アポ取り完了、依頼状書き、質問事項の確認、旅行係別会                                    |
| 10 | 10月25日    | 事前学習発表準備  |
| 11 | 11月8日     | 事前学習発表会   |
|    | 11月14～16日 | 研究旅行<br>一日目 FW<br>二日目 被爆証言者講話、広島平和記念資料館見学<br>三日目 毒ガス資料館（大久野島） |

|    |        |                             |
|----|--------|-----------------------------|
| 12 | 11月22日 | お礼状送付、集録原稿執筆、FW研究発表準備       |
| 13 | 12月13日 | 集録原稿下書き完成、研究発表（ポスターセッション）準備 |
| 14 | 1月17日  | 研究発表（ポスターセッション）準備           |
| 15 | 2月7日   | 研究発表会（ポスターセッション）            |
| 16 | 2月21日  | 一年間の振り返り                    |

どの学年でも難しいのは、テーマ設定であろう。グループ学習を行う中3では、さらに二つの壁がある。一つは、自分と他の班員の関心が合わないこと。もう一つは、せっかく班で意見を統一したのにFW先に断られてしまい、受け入れてもらったFW先にテーマを合わさなければならなくなること、この二つである。初めからすんなりテーマが決まる班は少ない。ここで班長が中心となり、班員に声をかけ、全員で情報を共有しながらテーマを絞り込んでいく。この過程で班員が仲良くなったり、自分たちで選んだテーマでなくても調べるうちに愛着がわいたり、という副産物もあった。生徒がテーマを決めあぐねている時には、教員がサポートする。

【各班のテーマとフィールドワーク先】

| 班  | テーマ                | フィールドワーク先                |
|----|--------------------|--------------------------|
| 1  | 原爆からの復興            | 広島市立大学 広島平和研究所           |
| 2  | 壁の伝言から学ぶ原爆の爪跡      | 袋町小学校平和資料館               |
| 3  | 戦艦大和               | 呉市海軍歴史科学館 大和ミュージアム       |
| 4  | 被爆者への支援            | 広島市原爆被害対策部調査課            |
| 5  | 原爆による放射線の被害        | 広島大学放射線医学研究所附属被ばく資料調査解析部 |
| 6  | 広島の復興—広島市民の努力と高い壁— | 広島市役所 都市計画課              |
| 7  | 被爆者の気持ち            | 広島テレビ                    |
| 8  | 原爆と原発              | 広島大学霞キャンパス原爆放射線医学研究所     |
| 9  | 放射線の影響             | 放射線影響研究所                 |
| 10 | 外国人から見た広島原爆        | 広島市留学生会館                 |

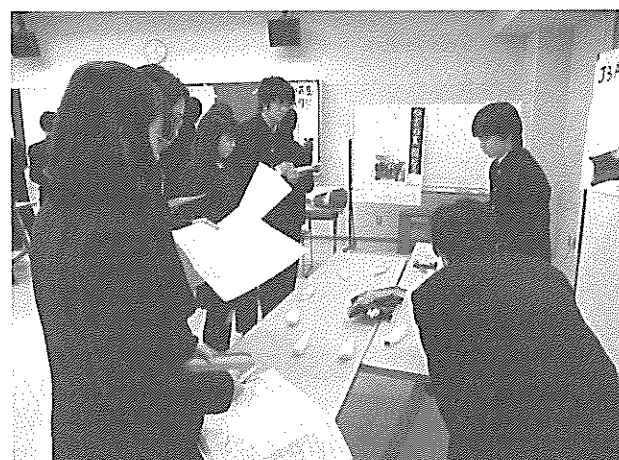
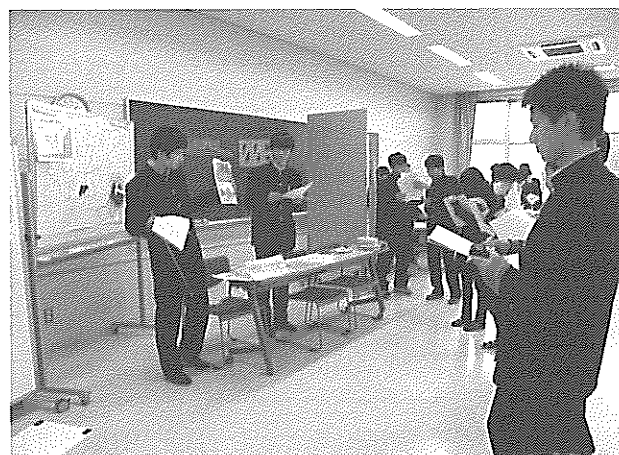
生徒に好評だったのは、最後に行ったポスターセッションである。今回は、各班でB紙3枚を使ったポスターを作り、二人で5分間の発表をし、2分間で聴衆から質問を受ける、という7分のサイクルを繰り返す方法にした。全員が発表を担当し、かつ全員が全部の班の発表を聞けるようにタイムテーブルを組んだ。生徒達はこ

の方法に対応するために、ポスターや資料作り（紙芝居、模型など）で効果的に伝える工夫をしたり、発表を時間内に収めるべく何度もリハーサルを行ったりしたことが新鮮に感じられたようである。当日はどのグループも活気ある発表ができた。

3. 一年間の学習を終えて

今年度は、講話や各活動に、生徒が真摯に取り組めたことが一番の成果である。講師の方々にも、生徒が熱心に話を聞いてくれたとお言葉やお手紙をいただいたのは、たいへん嬉しいことであった。また、班活動も班長がリーダーシップを発揮し、班員も協力してFWや原稿執筆やポスターセッションに熱心に取り組んでいた。毎回の授業のワークシートもよく提出した。教室で、テーマに関連する本がよく読まれていた。

総合人間科の活動に主体的に取り組むことで、学年の中に、戦争のことについて、互いに話しやすい雰囲気醸成されたと感じる。この一年間の活動を通して、本音で話ができる学年集団の形成と、他の意見に素直に耳を傾け柔軟に対応できる姿勢が個々にあること、この二つが達成されたと感じている。（文責：杉本雅子）



ポスターセッションの様子